

第 24 回地層処分技術 WG へのコメント

(国研) 海洋研究開発機構 野崎達生

この WG が開催されている時には、弊機構の「よこすか」調査航海に乗船中ですので、事前にコメントをお送りします。今回は委員会当日に出席できず申し訳ありません。

・【資料 2】「文献調査段階の評価の考え方(案)」の評価(案)ですが、この評価という言葉には『①評価を順番に進めていくステップ、事務フローと②評価を行う上での技術的観点』の 2 つの意味合いが合わせて含まれていると思います。②の方に関しては、丁寧な議論に基づいて至った結論ですので特に異論ありませんが、①については 1 ページ目のフローチャートについて、どのようなケース・評価結果の場合、どのようなステップに進むのか、あるいは戻ったり、終了になったりするのかが、「Yes or No の場合分けのフローチャート」のようなものになっていると、多くの方にとって分かりやすいものになるのかと思いました。

・第 23 回 WG でも議論しましたが、火山の項目に新たに加わった「新しい火山」に関する記述にまだ少し懸念を抱いています。少しでも危険な可能性を避けるために可能な限りの事前調査を行うのは当然の責務だと思いますが、新たな火山の噴出というのは科学的に 100%予測可能なわけではなく、曖昧な部分が残った項目があると、それぞれの立場によってこの項目を色々と恣意的に利用できる可能性が残ってしまう点を懸念しています。また、各自治体からの立候補とは別に、火山・地震などについて科学的観点から国が「この場所が最も安全な可能性が高い」と考える当該自治体と交渉を始めるのが、「科学的には」最も安全な可能性が高い道筋になるのですが。

それ以外の点に関しては、これまでの議論が丁寧に資料に反映されていると思います。